

読解における絵に関する考察 —絵本理解の視点から—

酒井 麻千子

はじめに

本稿は、筆者の絵本翻訳の経験を出発点としている。絵本翻訳とは、訳者自身が読み手となり物語を解釈していくことから、その作業が始まる。つまり、灰島(2005)が示すとおり、英文を理解し、場面のイメージをしっかりと頭の中で立ち上げ、そのイメージの中で日本語の表現を考えることになる。筆者の場合も、日本語の表現を視野に入れながら英文テキストの読解に取りかかったのだが、英語が理解できても、どうしてもイメージが持てない箇所がいくつかあった。自分の理解が不十分のまま、英語を日本語に直しても意味は伝わらない。そんな時、文章と対応する場面の絵をよく見てみると、絵の中にその答えが描かれていることに気がついた。灰島(2005)は、英語の文章を細部まで正しく読み取ると同時に、絵もよく見て、絵が語っている内容、絵の表情を理解することを指摘している。これは絵本翻訳における絵本理解の視点であるが、筆者は読み手の理解の視点から、絵が絵本テキストの理解を助けることに注目する。自ら翻訳を経験した絵本 *The Goat in the Rug* を題材に絵本理解の分析を行うことで、読み手のテキスト読解における絵の役割、有効性について考察することを本稿の目的とする。

1. 先行研究

1.1 絵本の絵と文章の関係

はじめに、絵本における絵と文章の関係について考えてみることにする。前沢(1999)は絵本翻訳者の立場から、挿絵と絵本の絵との違いに言及することで、両者の関係について述べている。前沢によると、挿絵を持つ本はテキスト自体で完成されている一方、優れた絵本は絵とテキストがお互いに補完し合うことで作品が完成されているという。そのため、絵本においては絵とテキストの二つの読解作業が行われ、絵がないと作者の意図が不完全に伝わってしまう場合があることを指摘している。これは、読み手の絵本理解における絵の必要性を示唆しているものと思われる。

1.2 絵本における絵の役割

絵本の絵と文章の相互補完関係の把握から、絵の役割というものが見えてきた。

ここでは、前沢(1999)が示す絵本の絵の役割を紹介する。前沢は、絵本の絵の基本的な役割をストーリーの展開を助けることであるとし、絵本の絵の役割として次の6点を挙げている。

- (1) ストーリーを展開させる。
- (2) ストーリーを語る。
- (3) ストーリー全体のトーンを設定し、文脈の把握を促す。
- (4) ストーリーのクライマックスや強調したい点を印象づける。
- (5) 言葉からでは理解、想像しにくい部分を伝える。
- (6) 言葉の意味を明確にする。

前沢は、(3)と(5)に関して具体的に例を示している。(3)のトーンの例として、ユーモラス、シリアス、ミステリアスなど、(5)については、日常生活では目にすることのないものや空想上のもの、登場人物の内面を例としている。

2. 絵本 *The Goat in the Rug* を用いた分析

2.1 題材

著者 Charles L. Blood, Martin A. Link, 絵 Nancy Winslow Parker による絵本作品、*The Goat in the Rug* を題材として用いた。この絵本は、アメリカ・アリゾナ州のウィンドウ・ロックを舞台とした、ネイティブ・アメリカン、ナヴァホ族の伝統芸術であるラグ織りについての物語である。主人公のヤギ Geraldine の羊毛を使って、親友でナヴァホ族の織工 Glenmae がラグを織っていく過程が、Geraldine による語りを通して伝えられていく。

題材選定の理由は、一点目として、各ページにその場面を示す絵と1～5文程度の文章が添えられていて、絵と文章の対応に均一性が見られたこと、二点目として、主人公で語り手でもある“私”がヤギであること、ラグ織り工程の説明が多いことから、絵が読み手の理解に果たす役割は大きいと思われたためである。

2.2 方法

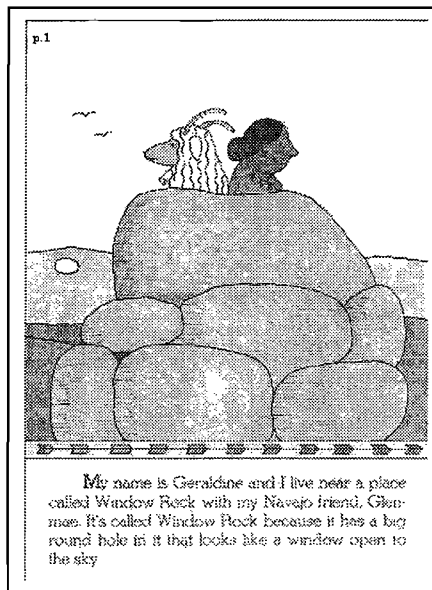
前沢(1999)の言う絵本における絵と文章の相互補完関係を視野に入れながら、各ページの絵と文章を比較し、読み手の理解の視点から分析を行う。絵と文章の対応を指摘し、絵と文章が補い合う、特に絵が文章を補っている、そのことによって読み手の理解が促されるという点に着目する。そうすることで、絵本理解から英語読解における絵の役割、有効性というものが明らかにされると期待する。

分析の際、物語の全 27 ページを内容の面から大きく 4 つのセクション(導入、展開、クライマックス、終結)に分けた。登場人物の紹介となる導入部分は p.1 と p.2, ラグ織りの作業過程である展開部分は p.3 から p.21 まで、ラグの完成場面であるクライマックスは p.22 から p.24 まで、最後の終結部分は、p.25 から p.27 までとした。さらに、展開部分としたラグ織り過程は、工程ごと 6 つ(工程 1 : 羊毛の準備, 工程 2 : 糸紡ぎ, 工程 3 : 染色の準備, 工程 4 : 染色, 工程 5 : 織りの準備, 工程 6 : ラグ織り)に分類した。

以下、各セクションから 1 ページずつを取り出し、分析を行うことにする。

【導入】

p. 1



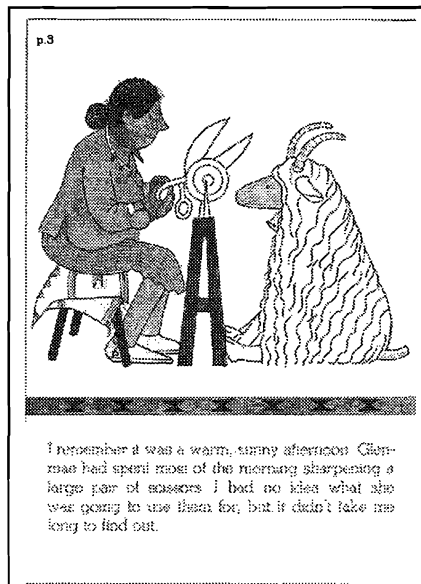
物語は“My name is Geraldine and I live near a place called Window Rock with my Navajo friend, Glenmae.”と始まる。ここから読み手は、“私”Geraldine が友人の Glenmae と一緒に Window Rock という所に住んでいることを理解する。絵の中にはヤギと女性の姿が描かれているが、読み手はその女性の姿から、彼女が Geraldine のナヴァホ族の友人 Glenmae であると分かる。しかし、読み手は絵を見なければ、Geraldine がヤギなのだということは分からない。読み手は、絵によってのみ、主人公 Geraldine がヤギであると知ることができるのである。また、読み手は文中の“live”という表現により、登場人物ふたりが、ただ Window

Rock にいる様子の絵だけでは明らかにされない、ふたりがそこで一緒に暮らしていることを理解する。

つぎに“*It's called Window Rock because it has a big round hole in it that looks like a window open to the sky.*”とある。読み手は、なぜふたりの住む場所が Window Rock と呼ばれているのかを知ることができるが、Window Rock というものの具体的なイメージは、読み手個人によって異なることが予想される。しかし、ふたりの背景に描かれた Window Rock の絵が、その言葉の表現のみでは想像しにくい部分を補い、読み手すべてに Window Rock の明確なイメージを与える。また、文中にある“hole”が、ふたりの背景に描かれた Window Rock の絵の曖昧性を補い、岩に穴が開いているという様子を読み手に伝える。

【展開】

p. 3



“I remember it was a warm, sunny afternoon.”とあり、Geraldine が Glenmae によるラグ織りの作業が始まったこと、それは暖かく晴れた日の午後であったことを思い出している。そして“*Glenmae had spent most of the morning sharpening a large pair of scissors.*”とあることから、Glenmae がその日の午前中ずっと大きなハサミをといでいたのだと読み手は理解する。そのあとに“*I had no idea what she was going to use them for,*”とあるように、

Geraldine は Glenmae が何のためにハサミをといでいるのか分からないでいたようであるが, “but it didn’t take me long to find out.”とつづき, あとでその理由を理解することになったとある。しかし, その理由について, この中の文章でははっきりと述べられておらず, 以後の文章中でも明確には示されない。

ここで絵を見てみると, Geraldine の目の前で Glenmae が器械を使ってハサミをとぐ様子が描かれている。文章からは Glenmae がハサミをとぐための器械を使っていること, Geraldine を目の前にしていることは伝えられておらず, 絵によってのみ伝えられる。読み手は, この絵の中の Glenmae が Geraldine を見つめている様子と, 後の絵の中の Geraldine を見ることで, Glenmae が Geraldine の羊毛を切るために午前中ずっとハサミをといでいたのだと推測でき, そして, 始めの文中にある“it was a warm, sunny afternoon”という時を示す表現が, Geraldine の羊毛が切られた時のことを指しているのだと解釈することができる。

物語の展開であるラグ織り過程においては, 読み手に馴染みのないナヴァホ族伝統のラグ織りの作業, 専門的な道具が, 文章と絵によって説明されることにより, 読み手に理解しやすく明確なものとなる。

【クライマックス】

p. 2 4



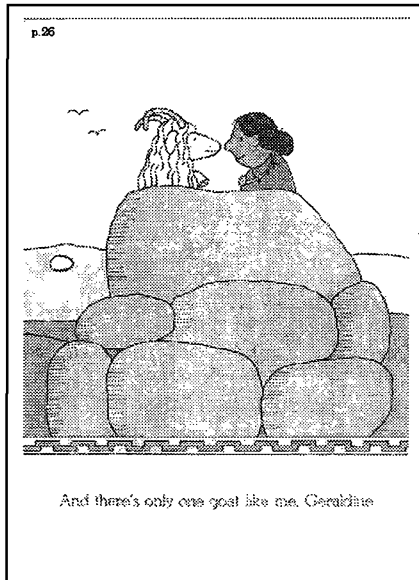
“There was a lot of me in that rug. I wanted it to be perfect. And it was.”とあり、ラグの中には自分がたくさんいたこと、完璧であってほしかったラグが本当にその通りであったこと、出来上がったラグに対する Geraldine の気持ちが詳細に読み手に伝えられる。

一方、絵には織機から取り外されたラグの上に座り込む Geraldine, その様子を見つめる Glenmae の姿が描かれている。Geraldine と Glenmae ふたりのうれしそうな笑顔が印象的である。この文章と絵によって、Geraldine の満足そうな気持ちが読み手へ強く伝えられることになる。

物語のクライマックスであるラグの完成の場面では、ラグの模様と色彩まで伝える絵によって、読み手にふたりのラグのすばらしさが伝わることになる。

【終結】

p. 26



“there's only one goat like me, Geraldine.”とあり、Geraldine のようなヤギはたった一匹しかいないということが述べられている。絵は、p. 1 の最初の場面と同じように Window Rock を背景にし、今度はふたりが顔を合わせている様子が描かれる。これまで物語を読み進めてきた読み手は、この絵を見ることで、ナヴァホ族にとって貴重な織工である Glenmae と、彼女のラグ織りに唯一協力する

ヤギ Geraldine の特別な親友関係について改めて深く理解することができる。

“only one goat”を言葉通りに解釈すると、Geraldine が“たった一匹のヤギ”ということになるが、決してそれだけを意味しているのではない。Geraldine と Glenmae のふたりにとっては、お互いが代えることのできない、大切な存在なのだということを、この絵が象徴している。

3. 結果と考察

3.1 絵本 *The Goat in the Rug* における絵の役割

絵本 *The Goat in the Rug* 全体の絵と文章の分析を通して分かった、読み手の物語理解と関わる絵の役割を以下にまとめた。また、分類した視点は多少異なるが、前沢(1999)による絵本における絵の役割と照らし合わせて、その対応関係も示すことにする。左が筆者による分類で、その右側太字が前沢による6つの役割の数字である。

- | | |
|---|-----------------------|
| (1)Geraldine と Glenmae の姿、表情、動きを示す。 | — (1) (2) |
| (2)ラグ織り工程の様子、用いた道具などを詳細に伝える。 | — (1) (2) (4) (5) (6) |
| (3)語句の意味や言葉の表現を明確に示す。 | — (5) (6) |
| (4)染色、ラグ織り、想像上のカラフルな Geraldine の姿など、色彩を伝える。 | — (2) (4) (5) |
| (5)語句の意味、次に起こる出来事などについての読み手の推測を促す。 | — (2) (3) (5) |
| (6)場面や背景を描き、その移行を示す。 | — (1) (2) (3) |
| (7)連続性のある絵によって時間経過、出来事のつながりを示す。 | — (1) (2) (5) |
| (8)読み手に馴染みのないナヴァホ族の文化に関する背景的知識を与える。 | — (5) |

簡潔に理由を述べると、(1)の登場人物の描写は、読み手が物語の内容とその展開を理解することにおいて重要であることから前沢の言う(1)(2)に分類した。(2)については、物語の中心となるラグ織りを説明する、読み手に印象づける、その中の言葉の表現を明確にすることから、(1)(2)(4)(5)(6)とした。(3)は前沢と同じく言葉による表現の理解に関わることから、(5)(6)とした。(4)の色彩を伝えることは、読み手に色彩のイメージを鮮明に与え、読み手の心をつかむと思われることから、(2)(4)(5)とした。(5)については、言葉の表現と内容に関わる読み手の推論を促すことで、文面には表されない雰囲気も伝えると思われることから、(2)(3)(5)とした。(6)は読み手にイメージを持たせて物語展開とその場面の雰囲気を示すた

め、(1)(2)(3)と判断した。(7)の連続性のある絵は、物語の展開をより詳細に伝えることから(1)(2)(5)とした。最後の(8)について、絵を通して読み手の馴染みのない文化についての理解を促していることから(5)とした。読み手は絵の中のGlenmaeの家やラグ織りの道具の描写によってナヴァホ族の生活の様子をうかがうことができる。

3.2 絵と文章の関係の再考

絵本 *The Goat in the Rug* の分析から、絵本の物語が絵と文章が示す情報によって構成されていると捉えると、絵本が与える情報を以下の4つに分類することができる。

(1)絵と文章が与える情報：

- ・特に絵によって文章が補われているもの
- ・特に文章によって絵が補われているもの

(2)絵のみが与える情報

(3)文章のみが与える情報

(1)の情報、特に絵によって詳細に補われている場合と、特に文章によって詳細に補われている場合がある。読み手は、その絵と文章両者の情報を理解することで、より精緻な情報を得ることができ、物語の理解を深めることができる。

(2)と(3)の情報については、絵と文章はその性質の違いによって、それぞれにしか与えることができない情報があり、読み手には絵と文章それぞれからの情報を理解することが必要となる。しかし読み手は、絵もしくは文章、一方からの情報を手がかりにすることによって、自らがその意味を解釈し、物語の理解を進めていくことが可能であると思われる。

絵本においては、絵と文章がお互いに補い合って、もしくは両者それぞれが、情報を与えることによって、読み手にその物語内容を伝えている。読み手も、これら絵と文章からの情報を効果的に活用しながら、物語を読み進め、そしてその内容を味わうことのできる深い読み、読解を行うことになる。このことから、前沢(1999)の言う絵本における絵と文章の相互補完関係がさらに明確なものとなった。つまり、絵本における絵と文章は、読み手への情報提示と、読み手の理解促進という二つの面において相互補完関係にあると言える。

4. まとめ

以上では絵本理解の視点から、絵と文章の相互補完関係を通して絵の役割を考察してきたが、最後に学習者の視点から、テキスト読解における絵の役割、有効性として捉えなおしてみることにする。言語に関わるものと、それ以外のものに分けて以下に示す。

(1)言語理解を助ける.

- ・ 語句の意味を示す, または手がかりを与える.
- ・ 言葉の表現をより明確に伝える.
- ・ 文章の情報をまとめて示す.

(2)言語外知識の利用を促す.

- ・ 読み手の持つテキスト内容に関わる背景的知識を活性化する.
- ・ テキスト内容の背景知識を与える.
- ・ 内容についての推論を促す.

おわりに

筆者は、絵本や物語とは心を豊かにし、何度も繰り返し味わい、楽しむことのできる読み物だと考える。一度だけではなく繰り返し読む度に、その文章や絵から新たな気づきや解釈を得られることも、その魅力である。絵本や物語理解において、絵が読み手を物語の世界へ引き込む、物語内容をふくらませるという点でも、文章表現の中の絵が果たす役割は大きい。しかしテキストや絵から与えられる情報を越えた理解、より豊かなイメージというのは、読み手個人によって、それぞれの心の中に作り出されることが十分に可能であることを強調しておきたい。また、本稿を通して見えた絵の役割、有効性に関する視点というものが、今後のリーディングの指導や教材等の作成において生かされることを期待する。絵の効果的な使用は、学習者の読解を助けるだけでなく、動機づけや読みのスキル獲得にも関わるものと思われる。学習者が自ら楽しむための読みを実現するため、自律した読みというものをも可能することは意義深い。今後の課題として、実践的な研究を試み、読み手の理解と絵の持つ効果、今回言及しなかった点についてもさらに検証していくことは必要である。

参考文献

灰島 かり(2005)『絵本翻訳教室へようこそ』研究社. 東京

前沢 明枝(1999)「語用論と絵本翻訳」『情報文化論 3』pp.55-69 情報文化研究会.

津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ(2002)『英文読解のプロセスと指導』大修館書店.

Carrell, P. L., Devine, J., & Eskey, D. (1988). *Interactive approaches to second language reading*. New York: Cambridge University Press.

Carr, Kathryn S., Buchanan, Dawna L., Wentz, Joanna B., Weiss, Mary L., and Brant, Kitty J. (2001). Not just for the primary grades: a bibliography of picture books for secondary content teachers. *Journal of Adolescent & Adult Literacy*

Charles L. Blood, Martin A. Link, and Nancy Winslow Parker (1976). *The Goat in the Rug*. New York: Aladdin paperbacks.

(岩手大学大学院教育学研究科教科教育専攻英語教育専修)